（様式１）

県立鉾田第一高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和６年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

○ 多様な進路希望を持った生徒の自己実現を可能にする県内トップレベルの進学校
○ 文武不岐の伝統に基づき活気あふれる特別活動等が展開される学校
○ 豊かな人間性とたくましさを持った生徒が、自主的･自律的･意欲的に生き生きと活動する学校
○ 保護者、地域社会から支持され信頼される開かれた学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、地域社会や地球規模の問題を総合的に学習する過程を通して、自己の在り方生き方を考えながら、世の中の問題を自らに直結する課題として捉え、適切に解決するための思考と行動とができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

（1）地域社会や地球規模の問題に関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、現実に社会で起こっている問題が自己の生活とつながりがあるものであることに気付く。
（2）地域社会や地球規模の問題を自らに直結する課題として捉えた上で、複雑に絡んだ事象から問題の因果関係を論理的に抽出したり、その解決のために情報を集めて分析したりする力を身に付けるとともに、探究の結果を論理的にまとめ、表現する力を身に付ける。
（3）地域社会や地球規模の問題についての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、自分たちが持続可能な社会の担い手であることを自覚し、社会に貢献しようとする態度を育てる。

総合的な探究の時間の学習評価

・月初めに月ごとの学習活動の目標や内容、評価の観点について指導担当者間で情報を共有する。
・時間ごとのワークシートや中間発表、成果発表プレゼンテーションへの取り組み、振り返りシートやレポートを評価の対象とする。
・中間発表時の相互評価や、成果発表プレゼンテーション後の聞き手からの評価シートの内容も評価に加味する。

生徒の実態

・大多数の生徒が、大学への進学を目指している。
・社会課題に向き合おうとする意思はあるが、向き合い方がわからず、主体的な行動を起こすことを躊躇する生徒が多い。
・学校行事等、意欲的に取り組む生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

1　個々の生徒への面談
2　必要に応じカウンセリングを実施
3　授業・教材のユニバーサルデザイン化を目指す。

目指す生徒の姿

地域社会をはじめとする現実の問題について、自らと直結する課題として捉え、その解決のために主体的に思考し、行動することができる生徒。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

【探究課題】
○１年次
「道徳」と地域で感じた地域社会の課題について、解決策を提言する。
（1）「ともに歩む」全文章と地域社会における課題の共通点を見つけ出した上で、地域社会の問題を課題として立てることができる。
（2）同じ課題について探究するグループの仲間と多様な意見を交わしながら、問題の因果関係を論理的に抽出し仮説を立て、収集した情報を分析して解決策を提言することができる。
（3）協働を通して互いのよさを認め合い、力を合わせて課題を意欲的に解決しようとする。
○２年次
地域社会の課題解決や個人探究課題について、実践し分析考察する。
（1）とくに地域社会の問題を自らに直結したものと捉え、課題として立てることができる。
（2）同じ課題について探究するグループの仲間と多様な意見を交わしながら、問題の因果関係を論理的に抽出し仮説を立て、収集した情報を分析して実現可能な解決策を提言することができる。
（3）協働を通して互いのよさを認め合い、力を合わせて課題を意欲的に解決しようとするとともに、探究を通して得た学問的興味を進路設計につなげようとする。
○３年次
自らのキャリアについて探究する。
（1）自分が進学したい学校の研究室や、校訓，成り立ちについてインターネット検索や書籍等を用いて調査する。
（2）入試問題に小論文や志望理由書がある場合、関連事項をテーマとして設定し、研究する。
（3）自らの進路について主体的に設計し、実現のための努力につなげている。

学習活動、指導方法等

【学習活動】
○全年次とも週１時間実施
○１年次
・個人の興味関心と地域の問題に焦点を当て、課題を設定して問題の原因の分析と解決策の提言ができるように探究活動を行う。
・クラス内での中間発表と年次全体での成果発表会（スライド発表）を実施する。
・１年間の探究の結果を振り返り、２年次の活動に結びつける。

○２年次
・個人の興味関心と地域の問題に焦点を当て、課題を設定して問題の原因の分析と解決策の提言ができるように探究活動を行う。
・クラス内での中間発表と年次全体での成果発表会（スライド発表）を実施する。
・探究の結果得られた問題点や解決策について、より深く研究することができる学問分野や大学等について調べ、自らの進路設計に結び付ける。

○３年次
・各時間振り返りシートを用いて自己評価と課題の確認をさせる。
・キャリア探究
・大学訪問
・大学出張講義
・発表会

【指導方法】
・１年次、２年次は、スマートフォン用アプリの作成を軸に探究を行う。
・担任、副担任を中心に指導する。探究活動で教科に関わる内容の時は担当教科の協力を仰ぐ。導入部分は主に個人。その後は主にグループ活動による。
・月初めに月ごとの学習活動の目標や内容、評価の観点について指導担当者間で情報を共有することによって、クラスごとの学習内容や評価のばらつきがないようにする。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

・全体計画の策定……教務部・進路指導部及び年次主任が当たる。
・環境整備……DX ハイスクール事業と関連付け、総合的な探究の学習プログラムや ICT 関連設備を整備する。
・学習過程の情報共有と指導方法の研修……各年次会議（毎週１回）及び進路指導部主催の探究学習研修会（年１回）
・外部との連携……地域社会の課題について情報収集するために鉾田市役所と連携
……キャリア探究のために卒業生や大学と連携（進路指導部主催の職業講話・大学出張講義等）